

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関  
国際事務局

(43) 国際公開日  
2022年9月1日(01.09.2022)



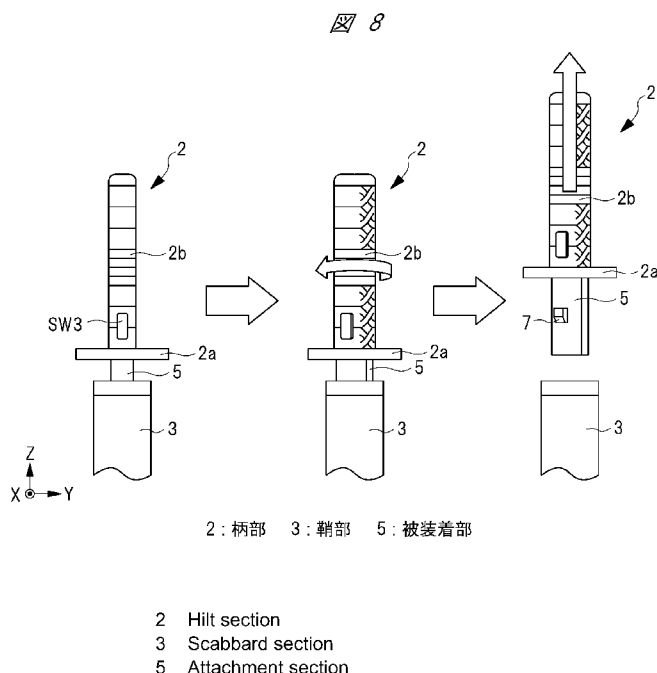
(10) 国際公開番号

WO 2022/181506 A1

- (51) 国際特許分類:  
A63H 5/00 (2006.01) A63H 33/00 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2022/006795
- (22) 国際出願日: 2022年2月18日(18.02.2022)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:  
特願 2021-031263 2021年2月26日(26.02.2021) JP
- (71) 出願人:株式会社バンダイ(BANDAI CO.,LTD.)  
[JP/JP]; 〒1118081 東京都台東区駒形一丁目4番8号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 荒川 賢一 (ARAKAWA Kenichi);  
〒1118081 東京都台東区駒形一丁目4番8号 株式会社バンダイ内 Tokyo (JP).  
奥村 優 (OKUMURA Yu); 〒1118081 東京都台東区駒形一丁目4番8号 株式会社バンダイ内 Tokyo (JP).
- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, IT, JM, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT,

(54) Title: MOCK SWORD TOY

(54) 発明の名称: 擬似刀剣玩具



(57) Abstract: [Problem] To provide a mock sword toy that provides an increased level of entertainment. [Solution] This mock sword toy includes a scabbard section 3 that resembles a scabbard for a sword, and a hilt section 2 that resembles the hilt of a sword and is configured so as to be able to be attached to and detached from the scabbard section 3. The hilt section 2 is provided with an attachment section that is attached to the scabbard section 3. The scabbard section 3 is provided with a first recessed section to which the attachment section 5 is attached in a manner allowing the same to



WO 2022/181506 A1

QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL,  
ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG,  
US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告(条約第21条(3))

be accommodated therein. The hilt section 2, when in a first state of being attached to the scabbard section 3, can be drawn out of the scabbard section 3, provided that after a first movement in which the hilt section 2 is moved a prescribed distance in a first direction that is the lengthwise direction of the scabbard section 3 and exposes the attachment section 5 from the first recessed section, a second movement is performed in which the same is moved further in the first direction in a state in which at least a portion of the attachment section 5 has been displaced, relative to the scabbard section 3, in a second direction that is different from the first direction.

(57) 要約: 【課題】 興趣性を向上させた擬似刀剣玩具を提供する。【解決手段】 擬似刀剣玩具は、刀剣用の鞘を模した鞘部3と、鞘部3に着脱可能に構成された刀剣の柄を模した柄部2とを含み、柄部2は、鞘部3に装着される被装着部を備え、鞘部3は、被装着部5を収容可能に装着する第1凹部を備え、鞘部3に装着された第1状態の柄部2は、鞘部3の長さ方向であって被装着部5を第1凹部から露出させる第1方向に所定の距離移動する第1移動の後、被装着部5の少なくとも一部を鞘部3に対して第1方向とは異なる第2方向に変位させた状態で第1方向にさらに移動する第2移動がなされたことを条件として、鞘部3から取り外し可能である。

## 明 細 書

**発明の名称**：擬似刀剣玩具

### 技術分野

[0001] 本発明は、擬似刀剣玩具に関し、特に、柄部と、柄部に対して着脱可能な鞘部とを備えた擬似刀剣玩具に関する。

### 背景技術

[0002] 従来、様々な武器の形態に対応した擬似刀剣玩具が流通している。例えば特許文献1には、本体部と鞘部とからなる刀剣玩具において、本体部の刀身部が鞘部に挿入された状態にあるか否かによって、出力する音声の種類を決定することが記載されている。

### 先行技術文献

#### 特許文献

[0003] 特許文献1：特開2010-183991号

### 発明の概要

#### 発明が解決しようとする課題

[0004] 単に刀身部および把持部から成る擬似刀剣玩具に比べ、柄部と鞘部とを備えた擬似刀剣玩具では抜刀による動作を楽しむことができる。擬似刀剣玩具の構造や演出を出力するタイミングなどを工夫し、剣士を演じる際の没入感をより高めることで、擬似刀剣玩具の興趣性を向上することが求められる。

[0005] 本願の主な目的は、興趣性を向上させた擬似刀剣玩具を提供することにある。その他の目的と新規な特徴は、本明細書の記述および添付図面から明らかになる。

#### 課題を解決するための手段

[0006] 本願において開示される実施の形態のうち、代表的なものの概要を簡単に説明すれば、次のとおりである。

[0007] 一実施の形態における擬似刀剣玩具は、刀剣用の鞘を模した鞘部と、前記鞘部に着脱可能に構成された刀剣の柄を模した柄部とを含む擬似刀剣玩具で

あって、前記柄部は、前記鞘部に装着される被装着部を備え、前記鞘部は、前記被装着部を収容可能に装着する第1凹部を備え、前記鞘部に装着された第1状態の前記柄部は、前記鞘部の長さ方向であって前記被装着部を前記第1凹部から露出させる第1方向に所定の距離移動する第1移動の後、前記被装着部の少なくとも一部を前記鞘部に対して前記第1方向とは異なる第2方向に変位させた状態で前記第1方向にさらに移動する第2移動がなされたことを条件として、前記鞘部から取り外し可能である。

### 発明の効果

[0008] 一実施の形態によれば、興趣性を向上させた擬似刀剣玩具を提供できる。

### 図面の簡単な説明

[0009] [図1]実施の形態における擬似刀剣玩具を示す正面図である。

[図2]実施の形態における柄部、鞘部および刀身部の組み合わせを示す正面図である。

[図3]実施の形態における柄部を示す斜視図である。

[図4]実施の形態における柄部を示す斜視図である。

[図5]実施の形態における鞘部を示す斜視図である。

[図6]実施の形態におけるフローチャートである。

[図7]実施の形態における鞘部から柄部を抜く動作を説明する正面図である。

[図8]実施の形態における鞘部から柄部を抜く動作を説明する側面図である。

[図9]実施の形態における鞘部を一部破断して示す斜視図である。

### 発明を実施するための形態

[0010] 以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて詳細に説明する。なお、実施の形態を説明するための全図において、同一の機能を有する部材には同一の符号を付し、その繰り返しの説明は省略する。また、以下の実施の形態では、特に必要なときを除き、同一または同様な部分の説明を原則として繰り返さない。

[0011] 以下に、図1～図9を用いて、本実施の形態における擬似刀剣玩具1について説明する。

- [0012] 図1に示されるように、擬似刀剣玩具1は、ユーザが把持可能である柄部2と、刀剣用の鞘を模した鞘部3と、少なくとも1つ以上の刀身部4とを備える。
- [0013] 鞘部3は、柄部2に対して着脱可能である。また、刀身部4は、柄部2に対して着脱可能である。図2には、左から右に向かって順に、鞘部3が柄部2に装着されている様子、刀身部4が柄部2に装着されている様子、および、柄部2に柄部3および刀身部4のいずれも装着されていない様子を示している。刀身部4は、その外観が刀剣の一部を構成する武器部材として作製されている。刀身部4が柄部2に装着された場合、ユーザは、これらを刀剣（日本刀）として認識できる。
- [0014] 柄部2は、刀剣の柄を模したものである。柄部2は、鏢部2aと、主にユーザによって把持されるための把持部2bと、把持部2bの長さ方向（Z方向）において、鏢部2aを挟んで把持部2bとは反対側に延在する突出部である被装着部5とを含む。言い換えれば、被装着部5と把持部2bとの間に鏢部2aが設けられている。柄部2に鏢部2aが設けられていることで、ユーザは、鏢部2aの先の被装着部5に鞘部3または刀身部4を装着すればよいと認識できる。被装着部5のZ方向における長さは、把持部2bのZ方向における長さより短くしておくことが好ましい。そのようにしておくことで、ユーザが柄部2を把持した状態で振り回してもユーザの周囲に害が及ぶ可能性が低くなり、安全性が向上する。
- [0015] なお、ここでは把持部2bおよび被装着部5のそれぞれの長さ方向をZ方向とし、鏢部2aの平面に沿う2つの方向をX方向およびY方向としている。X方向、Y方向およびZ方向は互いに直交する。Y方向は、日本刀の刃先と峰とを結ぶ方向である。
- [0016] 刀身部2は、被装着部5が収納される凹部（図示しない）を有しており、Y方向における刀身部2の両端には、当該凹部内と外部との間で貫通する孔部が設けられている。図2に示すように、刀身部4が柄部2に装着されているとき、被押圧部7は当該孔部に嵌合し、当該孔部の開口部近傍において露

出する。このように被押圧部 7 が当該孔部に嵌合することで、刀身部 4 は被装着部 5 に固定される。

[0017] 柄部 2 は、Y 方向における側面に操作部 SW 3 を有し、X 方向において被装着部 5 とは反対側の端部（日本刀における頭）に電源部 SW 4 を有している。

[0018] 操作部 SW 3 は、例えばスイッチであり、ユーザが操作可能であり、柄部 2 の外周に設けられ、鏝部 2 a の近くに設けられている。すなわち、柄部 2 には、ユーザが柄部 2 を把持した状態で押圧可能な位置に操作部 SW 3 が設けられている。操作部 SW 3 は、演出出力部から演出を出力させるためにユーザが操作する部分である。

[0019] 電源部 SW 4 は、例えばスイッチであり、ユーザが操作可能であり、被押圧部 7 と反対側に位置し、柄部 2 の他方の端部付近に設けられている。ユーザが電源部 SW 4 を押す度に、電源部 SW 4 は、オン状態（SW 4 \_\_ ON）またはオフ状態（SW 4 \_\_ OFF）に切り替えられる。

[0020] 演出出力部は、例えばスピーカであり、柄部 2 の内部に設けられ、複数の演出を出力するために設けられている。ここでは、複数の演出は、例えば台詞または効果音などの音である。

[0021] 図 1 および図 3 に示すように、柄部 2 には、押圧スイッチ（判定部）SW 1、押圧スイッチ（判定部）SW 2、操作部 SW 3、電源部 SW 4、一对の被押圧部 7、制御部（図示しない）および演出出力部（図示しない）などの部材が設けられている。

[0022] 一对の被押圧部 7 は、Y 方向において被装着部 7 を挟むように設けられている。また、被押圧部 7 は、外部から押圧されることで、Y 方向における被装着部 7 の内側に収納されるように移動可能である。被押圧部 7 は、例えば被装着部 7 内に設けられたバネなどにより、Y 方向において被装着部 7 の外側へ移動する向きに付勢されている。したがって、外部から押圧されていないとき、被押圧部 7 は被装着部 5 の側面から外側へ突出している。

[0023] 図 3 に示すように、押圧スイッチ SW 1 は、被装着部 5 において鏝部 2 a

近傍に設けられている。押圧スイッチSW1は、被装着部5に形成さえ、Z方向に延在する溝5c内の端部であって、把持部2b側の端部に設けられている。押圧スイッチSW1はZ方向において把持部2b側とは反対側（被装着部5の先端側）に付勢されており、Z方向において押圧されたときには、把持部2b側に押し込まれる。

[0024] 押圧スイッチSW2は、X方向に外側に向かって付勢されており、外部から押圧されたときには、X方向において被装着部5の内側に押し込まれるように移動する。

[0025] 図3および図4では、X方向における被装着部5の両側の側面をそれぞれ示している。図3および図4に示すように、X方向（日本刀の幅方向）において、被装着部5の両側の側面には、日本刀における平地と鑄地との境の鑄筋（稜線）がZ方向に延在して設けられている。このように、被装着部5の少なくとも一部は、刀剣の刀身部を模したデザインを有している。そのため、ユーザは被装着部5を刀身の一部として認識することが可能であり、剣士を演じる際のユーザの没入感を向上させることが可能である。

[0026] 図5は、鞘部3の鯉口側を示す斜視図である。図5に示すように、鞘部3は、鞘部3に被装着部5を装着する際に被装着部5を収容可能に装着する凹部6を備えている。ここでは、凹部6内に被装着部5の全体が収容され、これにより柄部2が鞘部3に装着されている状態を、第1状態と呼ぶ。凹部6内のX方向における1つの側面には、凹部6の中心（鞘部3の中心軸）側に突出する突出部8a、8bが設けられている。突出部8aは、凹部6の開口部近傍に位置しており、突出部8bは、突出部8aよりもZ方向において凹部6の奥側に位置している。また、突出部8a、8bは、Z方向において重ならない位置に配置されており、互いに離間している。

[0027] 次に、図6のフローチャートを参照しながら、本実施の形態における擬似刀剣玩具1を使用する際の擬似刀剣玩具1の動作について説明する。

[0028] 図6のフローチャートにおいて、最初に擬似刀剣玩具1は待機状態である（ステップS1）。ここでいう待機状態は、上述した第1状態、つまり被装

着部 5 が鞘部 3 に完全に收容されている状態である。

[0029] このとき、ユーザが操作部 SW 3 を操作した場合（ステップ S 2）、演出出力部は演出 4 を出力する（ステップ S 1 1）。第 1 状態でない場合、操作部 SW 3 への操作は検出されない。これは、ユーザが操作部 SW 3 を操作したことに応じて演出出力部で出力される演出 4 は、被装着部 5 が鞘部 3 に完全に收容されている状態であることに対応する演出である、即ち、刀身が鞘に完全に收容されていることを模擬した状態であることに対応する演出であり、第 1 状態でない他の状態において操作部 SW 3 への操作が検出され対応する演出が出力されると興趣性が低下するため、興趣性が低下する演出が出力されることを防止することを目的としたものである。

[0030] 次に、柄部 2 を鞘部 3 から取り外す際の動作、つまり抜刀を行うための動作について説明する。本実施の形態の擬似刀剣玩具 1 は、抜刀する際の勢いで鞘部 3 または柄部 2 がユーザの手から離れて飛ぶことに起因してユーザおよびユーザの周囲に害が及ぶことのないよう、柄部 2 を 1 方向に引き抜くという 1 つの動作のみでは抜刀が行えない構造を有している。具体的には、鞘部 3 から被装着部 5 を抜き出そうとすると、被装着部 5 の一部が鞘部 3 の凹部 6 内で当接し、被装着部 5 の移動が制限される。このように、第 1 状態から鞘部 3 に対して被装着部 5 を Z 方向（鞘部の長さ方向）であって被装着部 5 を鞘部 3 から露出する方向に所定の距離 L（図 7 参照）だけ移動（第 1 移動）させ、被装着部 5 の一部を凹部 6 から露出させることを、ここでは「鯉口を切る」と呼ぶ。また、鯉口を切った状態を第 2 状態と呼ぶ。

[0031] 図 7 には、左側に第 1 状態の鞘部 3 および柄部 2 を示し、右側に第 2 状態の鞘部 3 および柄部 2 を示している。

[0032] 第 1 状態において、図 5 を用いて説明した突出部 8 a は、図 7 に示すように、押圧スイッチ SW 1 を押圧している状態（SW 1 \_\_ ON）にある。言い換えれば、押圧スイッチ SW 1 は、押圧されることで第 1 状態であることを検出するものである。また、第 1 状態において、図 5 を用いて説明した突出部 8 b は、図 7 に示すように、押圧スイッチ SW 2 を押圧していない状態（

SW2\_\_OFF)にある。

[0033] 第1状態において、被押圧部7は、一部を除き被装着部5内に押し込まれて收容されている。鞘部3の凹部6内には、Y方向の両側面のそれぞれに比較的浅い凹部6aが設けられており、被押圧部7の当該一部(先端)は凹部6a内に收容されている。凹部6内のY方向の両側面のそれぞれには、凹部6aと、凹部6aに対しZ方向において鯉口側に並ぶように比較的深い凹部6bが設けられている。凹部6aは凹部6bよりも浅く、被押圧部7を收容する容積が小さい。

[0034] Z方向に並ぶ凹部6aと凹部6bとの間には、凹部6の中心側に突出する突出部6cが設けられている。このため、第1移動を行うときには、突出部6cによる押圧によって被押圧部7がさらに被装着部5の内側に押し込まれる程度の力を加えて被装着部5を引き抜く必要がある。すなわち、凹部6aおよび突出部6cは、被装着部5のZ方向であって被装着部5を鞘部3から露出する方向への移動を規制する。

[0035] 当該移動の規制は、柄部2にZ方向であって被装着部5を鞘部3から露出する方向への所定の力を加えることで解除可能である。鞘部3に対して被装着部5を第1移動させると、被押圧部7は凹部6aから取り出され、その後、鞘部3および被装着部5は第2状態となる。すなわち、第1移動後は、被押圧部7は凹部6b内に收容され、被装着部5のZ方向であって被装着部5を鞘部3からさらに露出する方向への移動は凹部6bと被押圧部7との嵌合により規制される。第1状態から第2状態となる過程において、突出部8aは、押圧スイッチSW1の押圧を解除する。これにより押圧スイッチSW1はオフ状態(SW1\_\_OFF)となる。言い換えれば、押圧スイッチSW1への押圧が解除されたことに基づいて、制御部は第1移動がなされたことが検出する。また、第1状態から第2状態となる過程において、突出部8bは、押圧スイッチSW2を押圧する。これにより押圧スイッチSW2はオン状態(SW2\_\_ON)となる。つまり、被装着部5は、押圧されることで第1移動がなされたことを検出する押圧スイッチSW2を有し、第1移動がなさ

れたことに応じて鞘部3の一部である突出部8bが、押圧スイッチSW2を押圧する。

[0036] 上記のように、ユーザは鞘部3に対して被装着部5を第1移動させることで、鯉口を切る（ステップS3）。鯉口を切ると、押圧スイッチSW1はオフ状態（SW1\_\_OFF）となり、押圧スイッチSW2はオン状態（SW2\_\_ON）となる。柄部2内の制御部はこれを検出し、演出出力部は演出1を出力する（ステップS4）。上記のように被装着部5の少なくとも一部は刀剣の刀身部を模したデザインを有しているため、ユーザは鯉口を切ることで刀身部の一部を露出させ、剣士を演じるような没入感を得ることができる。演出1の出力内容は、ステップS2で操作部SW3を操作したか否かにより変更されてもよく、そのようにしておくことで擬似刀剣玩具1の興趣性がさらに向上する。

[0037] 被押圧部7は、鏝部2aとは反対側に斜面を有しているため、第2状態から凹部6内に被装着部5を押し込んで第1状態に戻すこと、つまり刀を収めることが可能である（ステップS5）。刀を収めた場合、演出出力部は演出5を出力する（ステップS12）。

[0038] 第2状態から抜刀を行うためには、まず、被装着部5の少なくとも一部を鞘部3に対して、第1移動を行った方向であるZ方向とは異なる第2方向に変位させる必要がある。この変位を、例えば、鞘部3に対する柄部2の軸回転とすることが可能である。図8には、左から右に向かって順に、鯉口を切った第2状態、柄部2を軸回転させた第3状態、鞘部3から柄部2を抜き出した第4状態の鞘部3および柄部2を示している。図8に示すように、柄部2の軸回転は、鞘部3および柄部2の中心軸であって、鞘部3および柄部2の長さ方向（Z方向）に延在する軸を中心軸として行う。回転角度は、例えば20度であり、それ以上の回転は規制される。つまり、例えば20度より大きく回転させようとしても、被装着部5の表面が凹部6内の側面に当接して回転は規制される。なお、第3状態では、突出部8bは押圧スイッチSW2を押圧しているため、押圧スイッチSW2はオン状態（SW2\_\_OFF）

である。

[0039] 図9に、鞘部3をY方向およびZ方向に沿う面で破断させた斜視図を示す。図9に示す凹部6の側面は、図5に示す凹部6の側面の反対側の面である。図9に示すように、凹部6の側面には、鞘部3の中心軸側に突出し、凹部6の周方向に延在する突出部（リブ）が複数形成されている。この突出部のうち、凹部6bに繋がる突出部である押圧部6dは、第2状態から柄部2を軸回転させた際に、被押圧部7が回転移動する方向に向かって徐々に突出する高さが高くなっている。このため、柄部2を軸回転（変位）させ、第2状態から第3状態に移行するとき、この軸回転に応じて被押圧部7は押圧部6dにより押圧され、被装着部5内に收容される。よって、被押圧部7の鞘部3内での係止（被押圧部7と凹部6bとの嵌合）が解除されるため、第3状態の柄部2は鞘部3に移動を規制されずに鞘部3から取り外すことができる。すなわち、第3状態から被装着部5をZ方向であって被装着部5を鞘部3からさらに露出する方向に移動（第2移動）させることで、抜刀を行う（ステップS6）。言い換えれば、第3状態から鞘部3に対し柄部2をZ方向であって被装着部5を鞘部3から露出する方向にさらに移動する第2移動がなされたことを条件として、被装着部5を鞘部3から取り外せる。

[0040] 抜刀により第3状態から第4状態となる時、突出部8bによる押圧スイッチSW2の押圧は解除されるため、押圧スイッチSW2はオフ状態（SW2\_\_OFF）となる。制御部は押圧スイッチSW1のオフ状態（SW1\_\_OFF）および押圧スイッチSW2のオフ状態（SW2\_\_OFF）を検出し、演出出力部は演出2を出力する（ステップS4）。すなわち、制御部は、押圧スイッチSW2が押圧された後、その押圧が解除されたことに基づいて、第2移動がなされたことを検出する。演出2の出力内容は、ステップS2で操作部SW3を操作したか否かにより変更されてもよく、そのようにしておくことで擬似刀剣玩具1の興趣性がさらに向上する。

[0041] 被装着部5を凹部6内で軸回転させた第3状態で抜刀せず、ユーザが柄部2から手を離すと、柄部2は当該軸回転とは反対方向に軸回転し、第2状態

に戻る。これは、被押圧部 7 を付勢する力により押圧部 6 d が押され、被押圧部 7 が凹部 6 b 内に戻る方向に移動するためである。これにより、ユーザが第 3 状態の柄部 2 または鞘部 3 から手を離して（第 3 状態の柄部 2 または鞘部 3 のどちらかのみを把持した状態で）擬似刀剣玩具を振り回すなどしても、鞘部 3 から柄部 2 が抜け出ることを防ぐことができる。

[0042] 次に、抜刀を行った第 4 状態から、鞘部 3 の凹部 6 内に被装着部 5 を装着（収容）する動作、つまり刀を納める動作（納刀動作）を行う（ステップ S 8）。このとき、鞘部 3 に対する柄部 2 の上記軸回転方向の傾きは、第 1 状態のように鞘部 3 に対し柄部 2 を回転させていない傾きであってもよく、第 2 状態のように鞘部 3 に対し柄部 2 を回転させた傾きであってもよい。言い換えれば、凹部 6 は、鞘部 3 に装着されていない柄部 2 の被装着部 5 を、回転前の柄部 2 の向きおよび回転後の柄部 2 の向きのどちらでも凹部 6 に挿入可能な形状を有している。

[0043] すなわち、突出部 8 a、8 b は、ステップ S 8 の納刀動作において、図 3 に示す溝 5 c 内を通る。ここで、溝 5 c の幅は、Z 方向において被装着部 5 の先端側から把持部 2 b 側に向かって徐々に小さくなっている。被装着部 5 の先端側の溝 5 c の開口幅は大きいため、被装着部 5 が軸回転前の向きであっても軸回転後の向きであっても、突出部 8 a、8 b は溝 5 c 内に入る。溝 5 c の幅が、把持部 2 b 側に向かうにつれて小さくなる箇所では、溝 5 c の表面に斜面 5 a、5 b がそれぞれ設けられている。納刀動作において被装着部 5 が軸回転後の向きである場合には、突出部 8 a は斜面 5 a に当たって軌道を修正され、突出部 8 b は斜面 5 b に当たって軌道を修正されるため、被装着部 5 を凹部 6 内に完全に収容することができる。

[0044] ステップ S 8 の納刀動作では、押圧スイッチ SW 2 はオフ状態（SW 2\_\_OFF）から一回オン状態（SW 2\_\_ON）となり、その後再びオフ状態（SW 2\_\_OFF）となる。また、被装着部 5 を凹部 6 内に完全に収容されたとき、押圧スイッチ SW 1 はオン状態（SW 1\_\_ON）となる。これにより、制御部は納刀を検出し、演出出力部は演出 3 を出力する（ステップ S 9）

- 。
- [0045] 以上により、擬似刀剣玩具 1 は待機状態、つまり第 1 状態に戻る（ステップ 10）。
- [0046] 本実施の形態では、柄部と鞘部とを有する擬似刀剣玩具を用いて、抜刀による動作を楽しむことができ、擬似刀剣玩具の興趣性を向上させることができる。
- [0047] このような擬似刀剣玩具を用いた遊びの動作として抜刀を行う場合、抜刀時に柄部または鞘部を意図せず飛ばしてしまうことが考えられる。しかし、本実施の形態の擬似刀剣玩具は、柄部を 1 方向に引き抜くという 1 つの動作のみでは抜刀が行えない構造を有しているため、ユーザおよびユーザの周囲への安全性を確保できる。
- [0048] 以上、本願の発明を実施の形態に基づき具体的に説明したが、本願の発明は上記実施の形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々変更可能である。
- [0049] 例えば、上記実施の形態では、擬似刀剣玩具 1 が刀剣（日本刀）の形態を示す場合を例示したが、鞘部 3、刀身部 4 および柄部 2 の外観を他の武器部材とすることも可能である。すなわち、擬似刀剣玩具 1 は、例えば直刀、曲刀または諸刃の剣などのような他の武器形態であってもよい。
- [0050] また、上記実施の形態では、複数の演出は台詞および効果音のような音を含んでいたが、複数の演出は、更に他の音を含んでもよい。
- [0051] また、上記実施の形態では、複数の演出として音を例示したが、複数の演出は、光または振動などを含んでもよい。例えば、鞘部 3、刀身部 4 または柄部 2 に、発光機器または振動機器を備えさせ、制御部によってこれらの機器を制御させることもできる。

## 符号の説明

- [0052] 1 擬似刀剣玩具  
2 柄部  
2 a 鐔部

2 b 把持部

3 刀身部

5 被装着部

6 凹部

7 被押圧部

[0053] SW 1、SW 2 押圧スイッチ

SW 3 操作部

SW 4 電源部

## 請求の範囲

- [請求項1] 刀剣用の鞘を模した鞘部と、前記鞘部に着脱可能に構成された刀剣の柄を模した柄部とを含む擬似刀剣玩具であって、  
前記柄部は、前記鞘部に装着される被装着部を備え、  
前記鞘部は、前記被装着部を収容可能に装着する第1凹部を備え、  
前記鞘部に装着された第1状態の前記柄部は、前記鞘部の長さ方向であって前記被装着部を前記第1凹部から露出させる第1方向に所定の距離移動する第1移動の後、前記被装着部の少なくとも一部を前記鞘部に対して前記第1方向とは異なる第2方向に変位させた状態で前記第1方向にさらに移動する第2移動がなされたことを条件として、前記鞘部から取り外し可能である、擬似刀剣玩具。
- [請求項2] 請求項1に記載の擬似刀剣玩具において、  
前記第2方向への前記変位は、前記鞘部の前記長さ方向を軸として前記柄部を回転させる方向の変位である、擬似刀剣玩具。
- [請求項3] 請求項2に記載の擬似刀剣玩具において、  
前記第1凹部は、前記鞘部に装着されていない前記柄部の前記被装着部を、前記回転前の前記柄部の向きおよび前記回転後の前記柄部の向きのどちらでも前記第1凹部に挿入可能な形状を有している、擬似刀剣玩具。
- [請求項4] 請求項1～3のいずれか1項に記載の擬似刀剣玩具において、  
演出出力部をさらに備え、  
前記第1移動がなされたことに応じて、前記演出出力部から第1演出が出力される、擬似刀剣玩具。
- [請求項5] 請求項4に記載の擬似刀剣玩具において、  
前記第2移動がなされたことに応じて、前記演出出力部から第2演出が出力される、擬似刀剣玩具。
- [請求項6] 請求項5に記載の擬似刀剣玩具において、  
前記柄部には、使用者が前記柄部を把持した状態で押圧可能な位置

に操作部が設けられ、

前記演出出力部は、前記第1状態で前記操作部を操作したときと操作していないときで、前記第1演出または前記第2演出の少なくとも一方の演出を異なる演出に変更して出力する、擬似刀剣玩具。

[請求項7]

請求項6に記載の擬似刀剣玩具において、

前記第1状態でない場合、前記操作部への操作は、検出されない、擬似刀剣玩具。

[請求項8]

請求項1～7のいずれか1項に記載の擬似刀剣玩具において、

前記被装着部は、押圧されることで前記第1状態であることを検出する第1押圧スイッチを有し、前記第1状態では前記鞘部の一部が前記第1押圧スイッチを押圧している、擬似刀剣玩具。

[請求項9]

請求項8に記載の擬似刀剣玩具において、

前記第1押圧スイッチへの押圧が解除されたことに基づいて、前記第1移動がなされたことが検出される、擬似刀剣玩具。

[請求項10]

請求項1～9のいずれか1項に記載の擬似刀剣玩具において、

前記被装着部は、押圧されることで前記第1移動がなされたことを検出する第2押圧スイッチを有し、

前記第1移動がなされたことに応じて前記鞘部の一部が前記第2押圧スイッチを押圧する、擬似刀剣玩具。

[請求項11]

請求項10に記載の擬似刀剣玩具において、

前記第2押圧スイッチが押圧された後、その押圧が解除されたことに基づいて、前記第2移動がなされたことが検出される、擬似刀剣玩具。

[請求項12]

請求項1～11のいずれか1項に記載の擬似刀剣玩具において、

前記被装着部は、前記被装着部の外側に付勢され、前記鞘部の前記第1凹部内において前記鞘部の一部に押圧されることで前記被装着部の内側に移動する被押圧部を有し、

前記鞘部は、前記第1凹部内に前記第1移動がなされた位置で前記

被押圧部の少なくとも一部を收容することで前記被装着部の前記第1方向への移動を規制する第2凹部を有する、擬似刀剣玩具。

[請求項13]

請求項12に記載の擬似刀剣玩具において、

前記鞘部は、前記第1凹部内で前記被装着部が前記第2方向へ変位することに応じて前記被押圧部を押圧する押圧部を有する、擬似刀剣玩具。

[請求項14]

請求項13に記載の擬似刀剣玩具において、

前記鞘部は、前記第1状態における前記被押圧部の少なくとも一部を收容することで前記被装着部の前記第1方向への移動を規制する第3凹部を有する、擬似刀剣玩具。

[請求項15]

請求項14に記載の擬似刀剣玩具において、

前記第3凹部は、前記第2凹部よりも前記被押圧部を收容する容積が小さい、擬似刀剣玩具。

[請求項16]

請求項15に記載の擬似刀剣玩具において、

前記第1状態における前記被装着部の前記第1方向への移動の規制は、前記柄部に前記第1方向への所定の力を加えることで解除可能である、擬似刀剣玩具。

[請求項17]

請求項1～16のいずれか1項に記載の擬似刀剣玩具において、

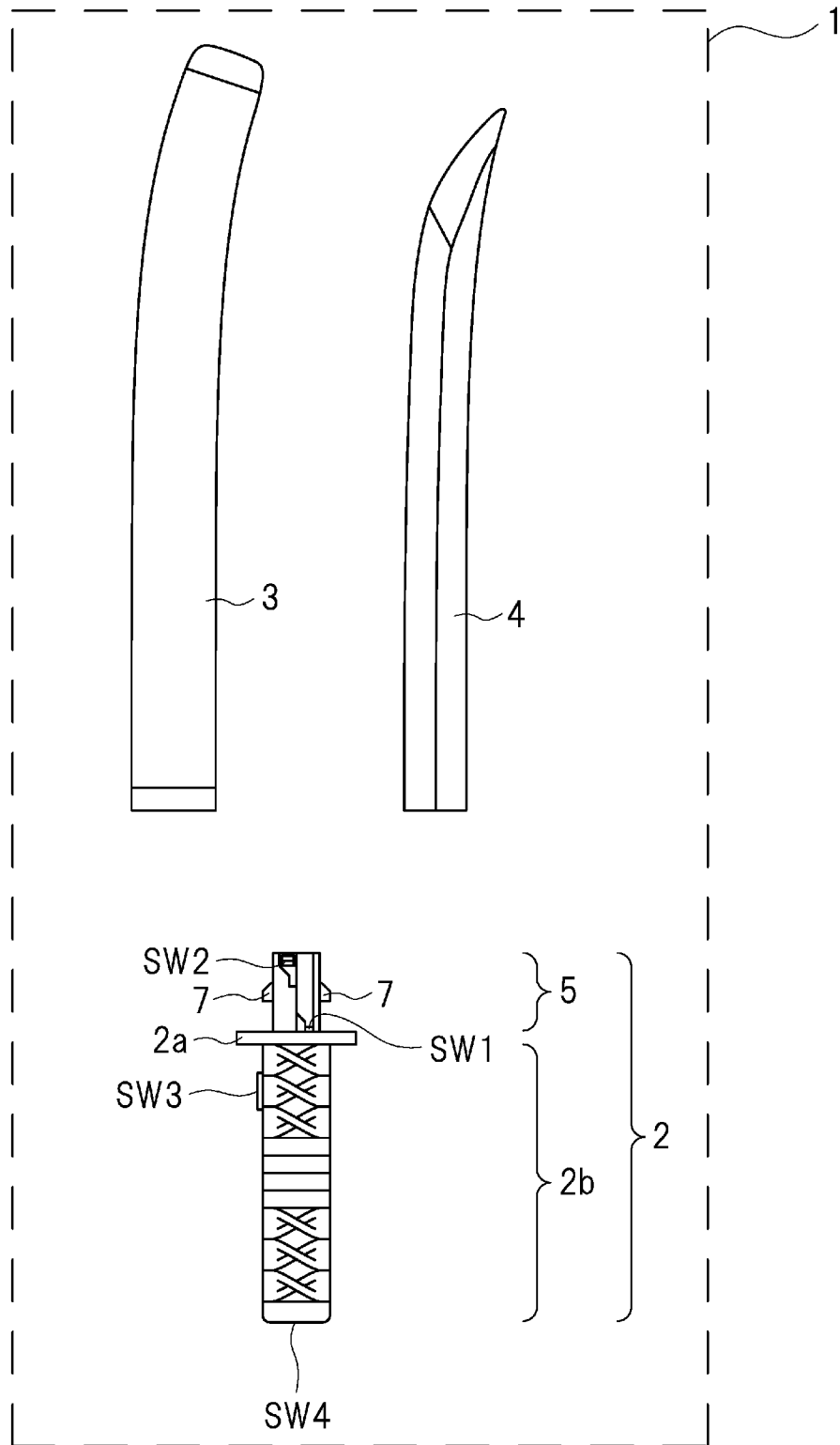
前記柄部は、把持部と鏢部とを備え、

前記被装着部は、前記鏢部を挟んで前記把持部と反対側に設けられており、

前記被装着部の前記第1方向の長さは、前記把持部の前記第1方向の長さより短い、擬似刀剣玩具。

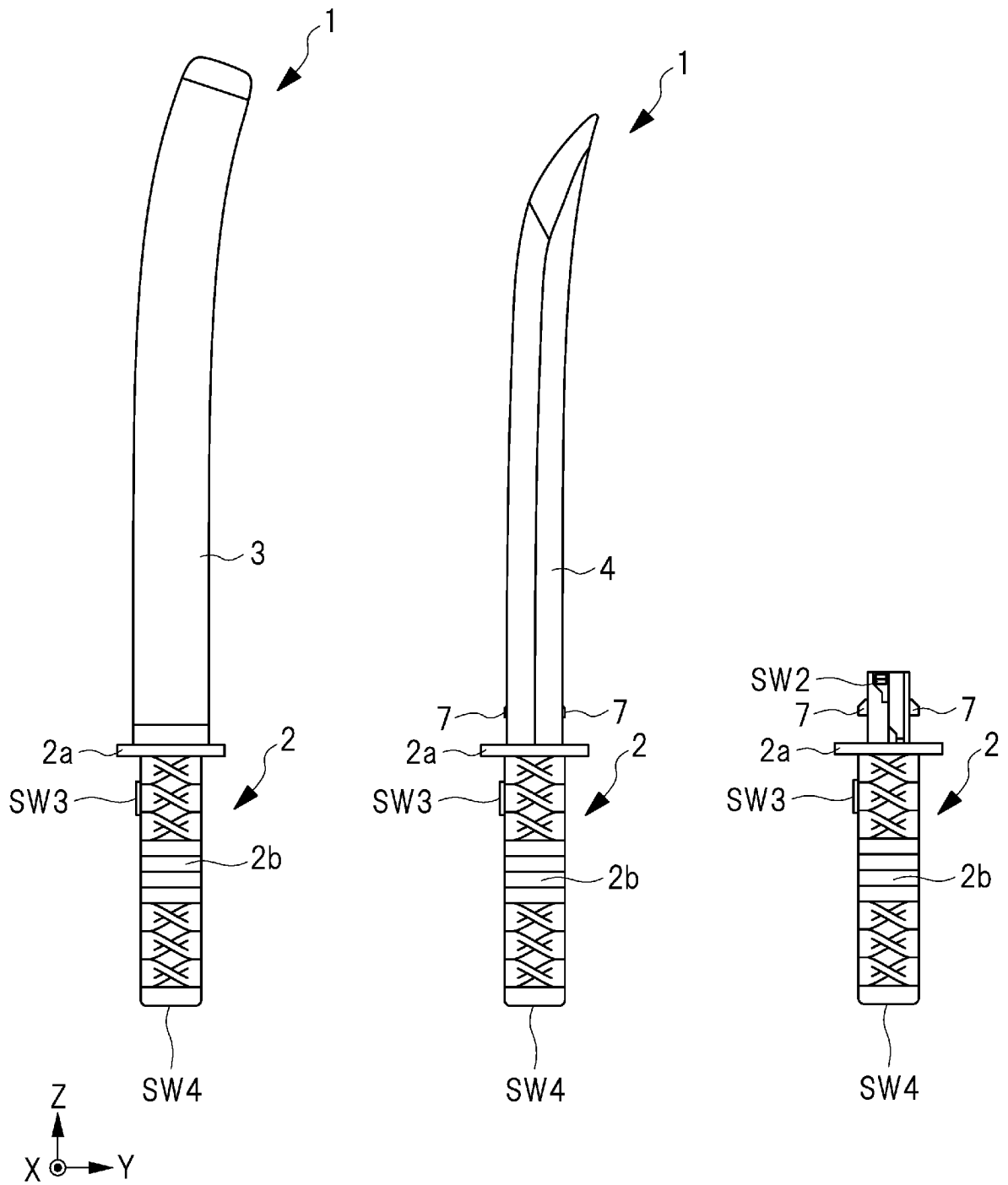
[図1]

1

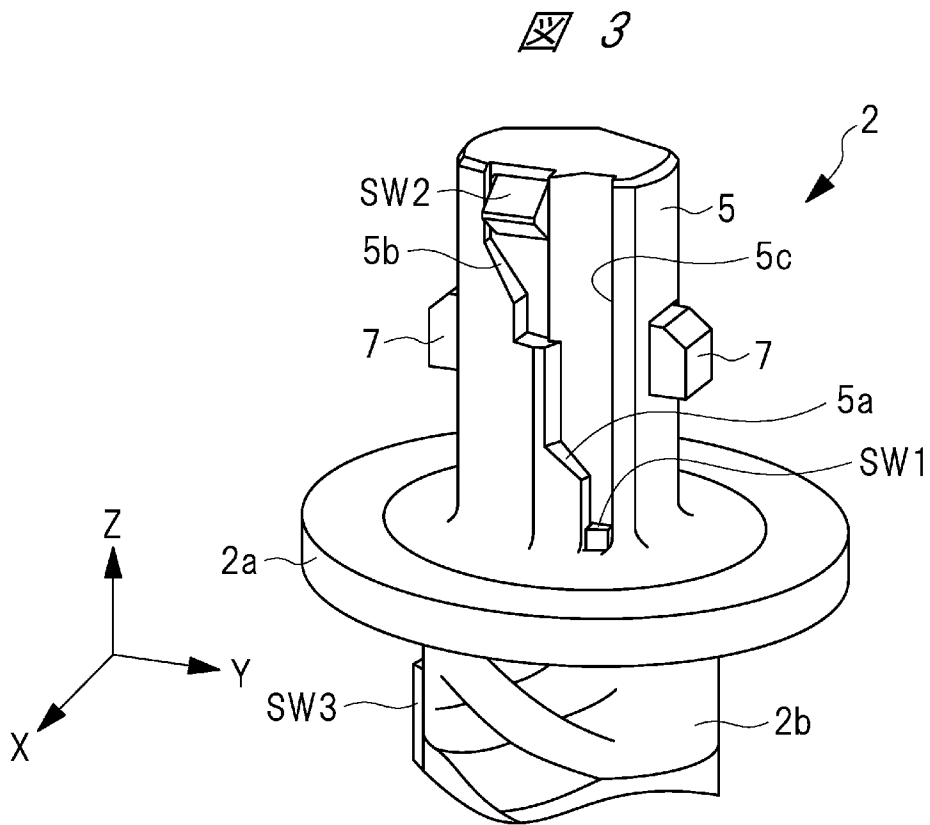


[図2]

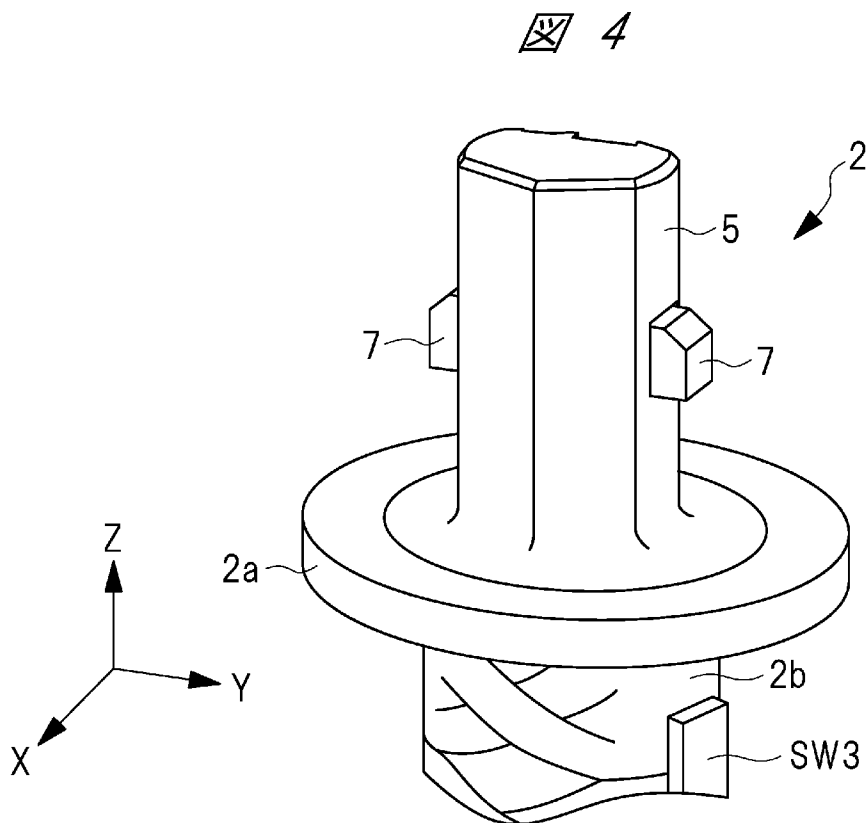
図 2



[図3]

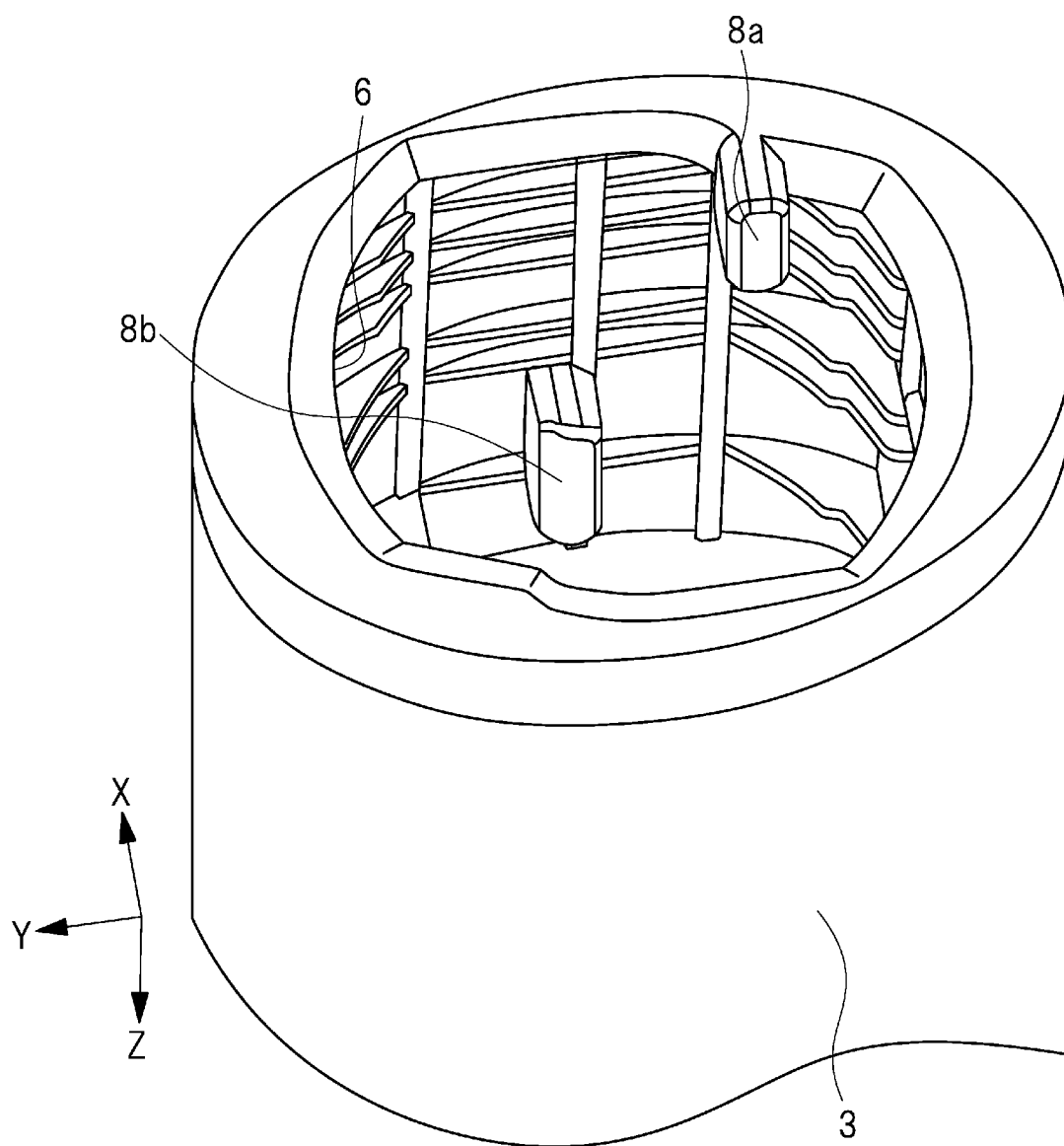


[図4]



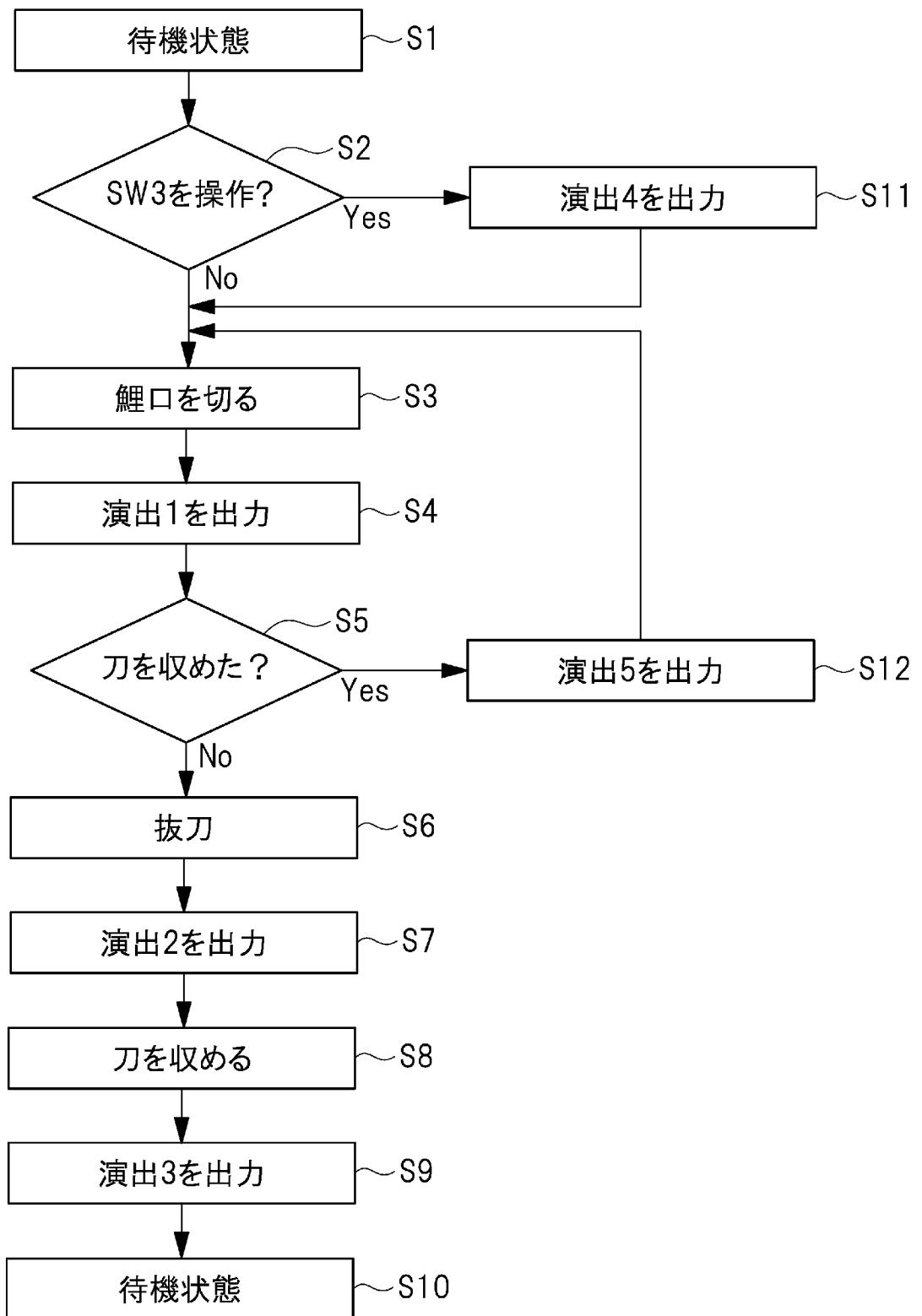
[図5]

5



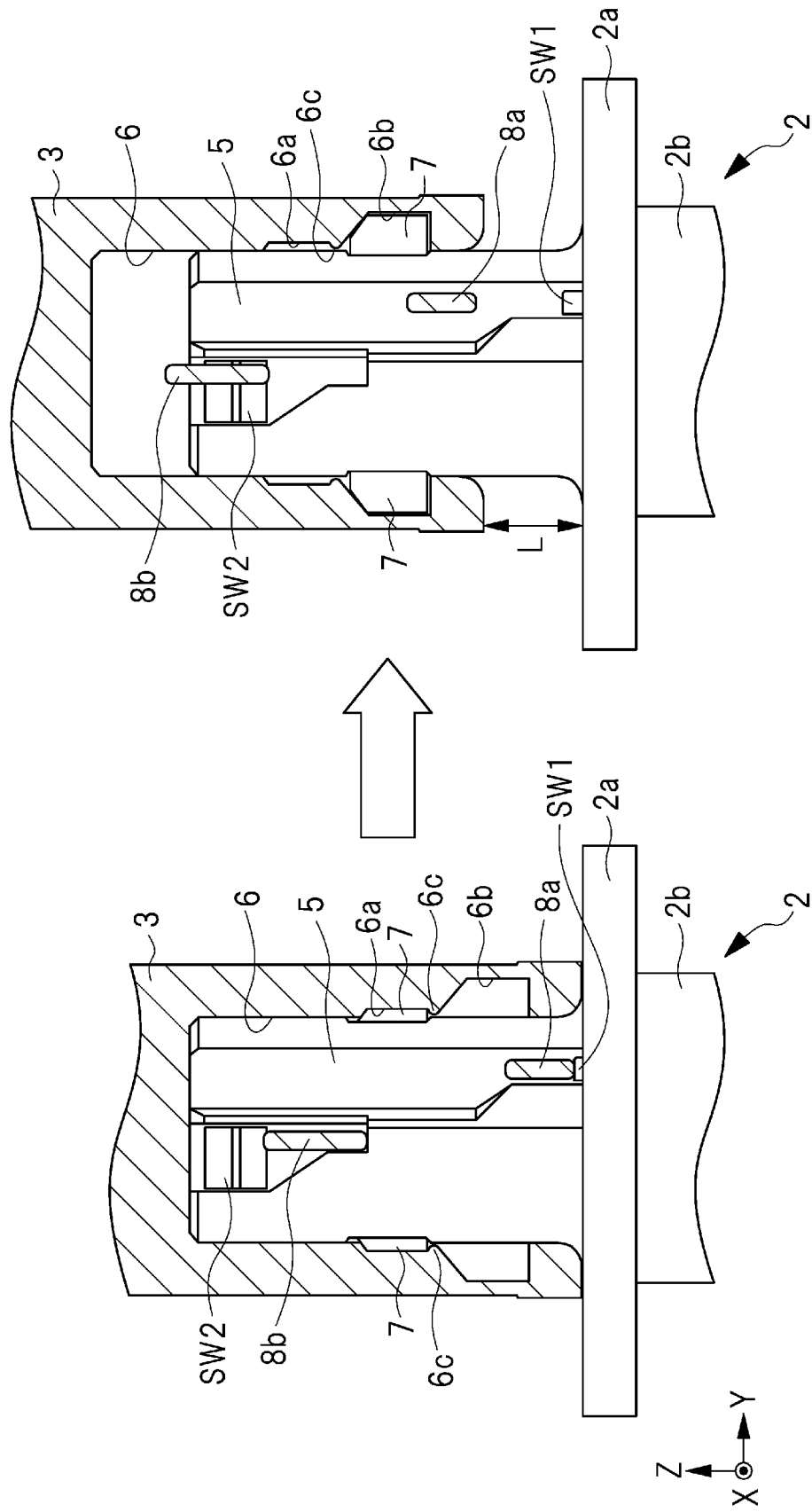
[図6]

6

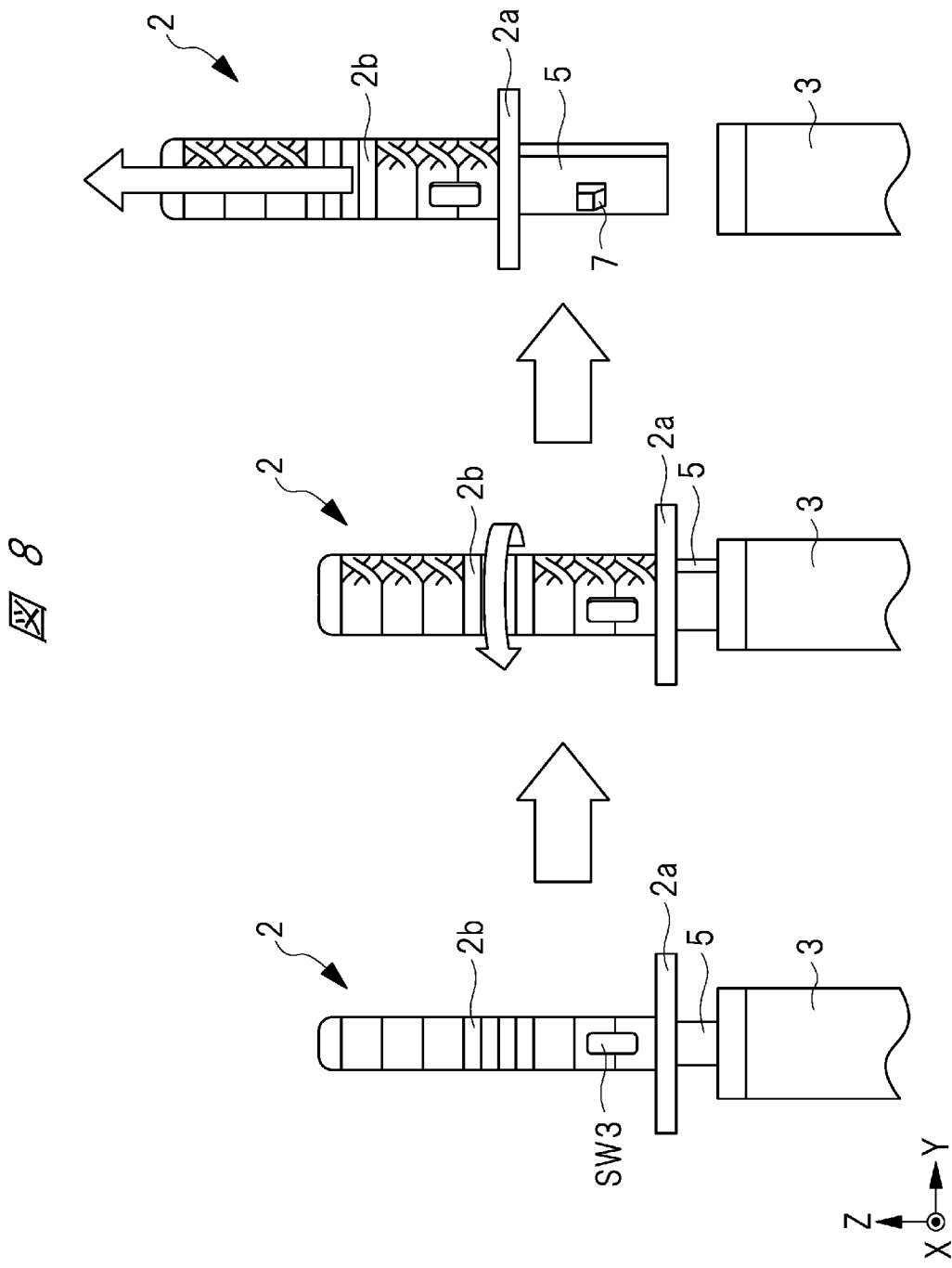


[図7]

7



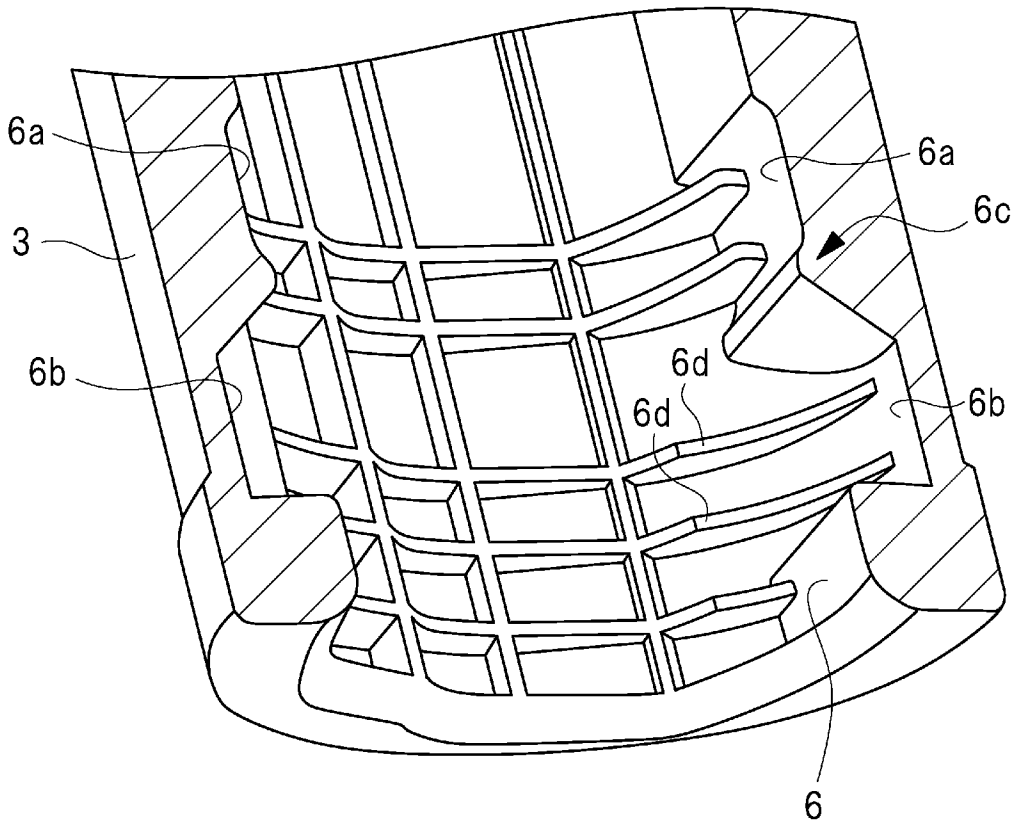
[図8]



2: 柄部 3: 鞘部 5: 被装着部

[図9]

図 9



## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2022/006795

<b>A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER</b>		
A63H 5/00(2006.01)i; A63H 33/00(2006.01)j FI: A63H33/00 C; A63H5/00 Z		
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
<b>B. FIELDS SEARCHED</b>		
Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) A63H5/00; A63H33/00; F41B13/02-13/08; B26B29/02		
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Published examined utility model applications of Japan 1922-1996 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2022 Registered utility model specifications of Japan 1996-2022 Published registered utility model applications of Japan 1994-2022		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)		
<b>C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT</b>		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2010-183991 A (BANDAI CO., LTD.) 26 August 2010 (2010-08-26) entire text, all drawings	1-17
A	JP 2009-284992 A (BANDAI CO., LTD.) 10 December 2009 (2009-12-10) entire text, all drawings	1-17
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 107942/1979 (Laid-open No. 25065/1980) (TETSUYA, Akira) 18 February 1980 (1980-02-18), entire text, all drawings	1-17
A	JP 2018-27251 A (YURTEC CORP.) 22 February 2018 (2018-02-22) entire text, all drawings	1-17
A	JP 11-90061 A (TABATA CO., LTD.) 06 April 1999 (1999-04-06) entire text, all drawings	1-17
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 95486/1972 (Laid-open No. 53700/1973) (TAKARA CO., LTD.) 11 July 1973 (1973-07-11), entire text, all drawings	1-17
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search <b>21 April 2022</b>		Date of mailing of the international search report <b>10 May 2022</b>
Name and mailing address of the ISA/JP <b>Japan Patent Office (ISA/JP) 3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915 Japan</b>		Authorized officer  Telephone No.

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

**PCT/JP2022/006795**

<b>C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT</b>		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 127367/1977 (Laid-open No. 47949/1978) (SOUEI INSATSU K.K.) 22 April 1978 (1978-04-22), entire text, all drawings	1-17
P, A	JP 6899472 B1 (BANDAI CO., LTD.) 07 July 2021 (2021-07-07) entire text, all drawings	1-17

**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**  
**Information on patent family members**

International application No. <b>PCT/JP2022/006795</b>
---

Patent document cited in search report	Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP 2010-183991 A	26 August 2010	(Family: none)	
JP 2009-284992 A	10 December 2009	(Family: none)	
JP 55-25065 U1	18 February 1980	(Family: none)	
JP 2018-27251 A	22 February 2018	(Family: none)	
JP 11-90061 A	06 April 1999	US 6138363 A whole document CN 2341780 Y	
JP 48-53700 U1	11 July 1973	(Family: none)	
JP 53-47949 U1	22 April 1978	(Family: none)	
JP 6899472 B1	07 July 2021	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） A63H 5/00(2006.01)i; A63H 33/00(2006.01)i FI: A63H33/00 C; A63H5/00 Z		
B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） A63H5/00; A63H33/00; F41B13/02-13/08; B26B29/02 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2022年 日本国実用新案登録公報 1996-2022年 日本国登録実用新案公報 1994-2022年		
国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）		
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 2010-183991 A (株式会社バンダイ) 26.08.2010 (2010-08-26) 全文, 全図	1-17
A	JP 2009-284992 A (株式会社バンダイ) 10.12.2009 (2009-12-10) 全文, 全図	1-17
A	日本国実用新案登録出願53-107942号(日本国実用新案登録出願公開55-25065号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (鉄屋昭) 18.02.1980 (1980-02-18) 全文, 全図	1-17
A	JP 2018-27251 A (株式会社ユアテック) 22.02.2018 (2018-02-22) 全文, 全図	1-17
A	JP 11-90061 A (株式会社タバタ) 06.04.1999 (1999-04-06) 全文, 全図	1-17
A	日本国実用新案登録出願46-95486号(日本国実用新案登録出願公開48-53700号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (株式会社タバタ) 11.07.1973 (1973-07-11) 全文, 全図	1-17
<input checked="" type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input checked="" type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。		
* 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献	“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献	
国際調査を完了した日 21.04.2022	国際調査報告の発送日 10.05.2022	
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	権限のある職員（特許庁審査官） 安田 明央 2D 9309 電話番号 03-3581-1101 内線 3241	

C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	日本国実用新案登録出願51-127367号(日本国実用新案登録出願公開53-47949号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム(双英印刷株式会社) 22.04.1978 (1978-04-22) 全文, 全図	1-17
P, A	JP 6899472 B1 (株式会社バンダイ) 07.07.2021 (2021 - 07 - 07) 全文, 全図	1-17

国際調査報告  
 パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2022/006795

引用文献	公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP 2010-183991 A	26.08.2010	(ファミリーなし)	
JP 2009-284992 A	10.12.2009	(ファミリーなし)	
JP 55-25065 U1	18.02.1980	(ファミリーなし)	
JP 2018-27251 A	22.02.2018	(ファミリーなし)	
JP 11-90061 A	06.04.1999	US 6138363 A whole document CN 2341780 Y	
JP 48-53700 U1	11.07.1973	(ファミリーなし)	
JP 53-47949 U1	22.04.1978	(ファミリーなし)	
JP 6899472 B1	07.07.2021	(ファミリーなし)	